

地理総合  
地図帳活用 コトハジメ  
「地理総合」での地図帳の活用法



第4回 『高校生の地理総合』2部1章1節「世界の地形と人々の生活」での地図帳活用

## 地図帳から読み解く 「世界の地形と人々の生活」

田園調布学園中等部・高等部 山田 智之 (やまだ・ともゆき)

『高校生の地理総合』  
2部1章1節  
『新詳高等地図』



### ■ 地図帳で把握しやすい大地形

ある地域の人々の暮らしを理解するうえで、自然環境を押さえておくことは欠かせない。地域の特徴を大きくつかむ場合、まずは大陸や大平原、山脈といった大地形を確認することから始めるとよい。大地形の形成には、プレートの動きが関係している（プレートテクトニクス）。『高校生の地理総合』p.38～39で安定地域と変動帯の区別を確認した後、日本と同じような4つのプレートの重なる変動帯を探すと、中東のトルコからイランや、カリブ海がそれにあたるのが分かる。この地域は火山や地震が多いという共通点があるが、各大陸の大地形の違いや共通点を比較させることで、その地域の特色をとらえることができる。

図1の南アジア地域で見られるヒマラヤ山脈は、ユーラシア大陸（ユーラシアプレート）にかつて巨大な島であったインド（インド・オーストラリアプレート）が衝突したことで形成された。ヒマラヤ山脈は世界最高峰のエヴェレスト山をはじめとする8000m級の山々が見られる山岳地域である。大変な高所であることから樹木や植物は生育することが難しく、ヤクなどを飼育しての遊牧生活が見られる。また、ヒマラヤ山脈に端を発するガンジス川がつくるヒンドスタン平原は米作りが盛んな地域で、14億を超える人口の食料を支えている。南部のデカン高原は溶岩台地で、玄武岩が風化したレグールは綿花栽培に適しており、インドは世界有数の綿花生産地である。『新詳高等地図』（以下、地図帳）p.31～34の一般図・主題図からは、こうした多様な暮らしの姿が読み取れる。規模は全く異なるが、日本列島ではユーラシアプレートにフィリピン海プレートが衝突したことで形成された伊豆半島（地図帳p.125～126）が同じような出来方である。学習が進んだ後、両地域を比較してみるのもおもしろいかもしれない。

『高校生の地理総合』p.38 ① エヴェレスト山のベースキャンプを目指す人々（ネパール、2019年4月）

### ■ 地図帳で確認できる小地形の数々

地図帳の中には、カルデラ など青い印でさまざまな小地形が示されている。右頁中下段の図は、リアス海岸を例としており、スペイン北西部ガリシア地方のリアスバハス海岸（図3 図5）と日本の東北地方太平洋岸に広がる三陸海岸（図4）が示されている。リアス海岸は山地の谷の部分に海水が侵入して出来る地形であるため、湾の水深が深いほか、外洋の波の力が湾内では弱められ、穏やかな環境を保つことができる。背後に山地が迫り、平地は狭いものの、漁港としては恵まれた条件を持つため、宮古、大船渡、気仙沼、石巻など、漁業が重要な産業となっている。湾奥が狭いことにより、巨大な地震が引き起こす津波の被害が大きくなるため、津波避難訓練の実施や強固で高さのある防潮堤のような津波対策も行われている。リアス海岸 以外に、地図帳p.131～132では、青森県、秋田県の日本海側で海岸段丘 や マール の記載も発見できる。日本は周囲を海に囲まれているため、海岸段丘、海岸平野、砂州などを見つけやすい。自分の住む地域で身近なものを取り上げ、理解を深めていけばよい。

### ■ 地図帳を通じて磨く力

大地形と小地形を確認することで、推測できる暮らしの姿がある。地図帳を活用しての読み取りを繰り返すうちに、その力は徐々に磨かれていく。授業時にできるだけ地図帳で地形を読み取る機会を確保することが重要である。





**読図** ヒマラヤ山脈はどうしてできたのだろうか。また、その東部で山と川が交互に並んでいるのはなぜだろうか。p.194③図と見比べて考えてみよう。

人口密度が高い地域

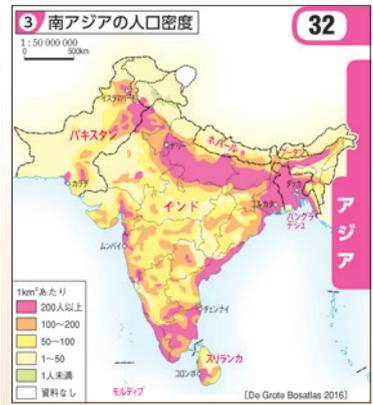


図2 『新詳高等地図』p.32

「③ 南アジアの人口密度」

図1 『新詳高等地図』p.31~32

「① 南アジア」(部分)とp.31「読図」

ヒマラヤ山脈は、ユーラシアプレートにインド・オーストラリアプレートがぶつかって出来ました。



**授業ではこう使う！**

ヒマラヤ山脈でエヴェレスト山以外にも 8000m を超える山々に印を付け ( 図1 )、この地域が世界最高所にあたることを確認する。ヒマラヤ山脈を源流とするガンジス川の流路を地図上でなぞり、この河川の堆積物によって出来たヒンドスタン平原は、南アジアで人口密度が高い地域 ( 図2 ) とおむね一致することを読み取る。



図3 『新詳高等地図』p.55「①イベリア半島」リアス海岸



図4 『新詳高等地図』p.131~132「①東北地方」リアス海岸



図5 『新詳高等地図』p.139「②沈水海岸」

©リアス海岸—ガリシア地方(スペイン)」



**授業ではこう使う！**

リアス海岸の特徴である屈曲した海岸線(谷が海面下に沈んで出来た、ギザギザした形)に着目し、リアスバハス海岸と三陸海岸の位置を確認する ( 図3 図4 )。三陸海岸では、宮古、大船渡、気仙沼、石巻など水揚げの多い漁港が見られ、漁業が盛んであることにも着目する。

「リア」はスペイン語で入江を意味し、リアスバハス海岸がリアス海岸の呼び名の由来となりました。

